

ゼミ活動報告 「ディベート大会①」

藤井翔太

2012年8月9日から11日まで小豆島でのゼミ合宿で開催されたディベート大会について報告します。今回の議題は2つあり、1つ目は「企業は株主価値拡大のみを目的に経営されるべきである」、2つ目は「日本企業はもっと積極的なペイアウトを実施すべきである」という議題を基に肯定、否定に分かれてディベートを行いました。

ディベート大会で、ゼミ内で共有されていた目的は3つあります。第1に、2期生が先



期ゼミで輪講に用いたブリーリー、マイヤーズ、アレン『コーポレートファイナンス』の上巻の復習から、雑駁な知識を論理構築する中で自らの主張に援用できるまでに統一させること。第2に、ディベート中での主張、質疑応答での自分の発言が、相手の主張の材料として利用される危険性を認識すること。第3に、自分の主張を絶対的なものとして墨守するのではなく、相対的なものである

ことを認識し再考、省察すること。これら3つを目的として、4チームに分かれて、それぞれ準備を進め当日に臨みました。

ディベートでの主要な争点の要旨をまとめると、1つ目の議題では、「株主価値拡大を目指すことがステイクホルダー全体の利益に直結するかどうか」が争点となり、2つ目の議題では「積極的なペイアウトが株主へのシグナリング効果を通じて企業にどのような影響を及ぼすのか」加えて「日本企業が保有する現金は、即刻株主に還元されるべきものか、または将来の投資に向け保有することが最適なのかどうか」という争点となりました。

ディベートは、強弁により持論に固執するので、口論のようだという意見がゼミ中でありましたが、悪魔の代弁者という役割の認識が今後のゼミ活動にも有用だと思います。

